

名寄市立大学短期大学部児童学科の就職の動向に関する一考察

～過去数年間の軌跡～

宮内俊一*

(名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科)

キーワード：就職進路、正規・非正規、道内・道北・地元での就職

1. はじめに

名寄市立大学短期大学部児童学科は2015年に募集が停止され、2016年4月より社会保育学科が創設された。社会保育学科で取得できる資格は、保育士、幼稚園教諭一種、特別支援学校教諭一種等であり、質の高い保育士、幼稚園教諭、保育教諭を目指すことになった。

短期大学部児童学科では、保育士、幼稚園教諭二種の資格を取得して、それぞれの学生が就職進路を決めていった。学生は様々な条件の中で悩みながらも自己決定し進路を選択している。

進路指導においては、キャリア支援センター職員、就職委員、ゼミの教員等が親身になって学生と真摯に向き合い、親との調整、関係機関の調整等をしながら時間をかけて行ってきた。就職率は、9年間100%であり、社会に出て活躍している。

著者は、5年間キャリア支援センター委員及び就職委員を務め就職指導に携わってきたので、就職の動向をまとめるとともに検証を試みる。

2. 目的

本稿では、名寄市立大学短期大学部児童学科の沿革と過去の就職の動向をまとめ考察する。なお、限られた情報での考察であることを申し添える。

3. 研究方法

名寄市立大学短大学部卒業生の就職進路状況を年度ごとに集約し、分析を行う。倫理的配慮については、集約・分析・報告において特定の個人名、就職先の名称が特定できないように配慮している。

4. 名寄市立大学短期大学部児童学科の沿革

1960年4月に名寄女子短期大学を開学して、家政科を設置した。1984年4月家政科には児童専攻課程(定員50名)が設置された。1990年4月に大学名称・学科の変更及び共学化がなされ、市立名寄短期大学・生活科学科児童専攻となる。幼稚園教諭二種免許を認定し、1994年2月に保育士養成学校の指定となった。2006年4月に生活科学科児童専攻を「児童学科」に変更した。同年同月には、名寄市立大学(保健福祉学部)が開学している。2008年4月市立名寄短期大学の名称変更をし、名寄市立大学短期大学部児童学科となる。2015年には短期大学部児童学科の募集を停止し、2016年4月保健福祉学部「社会保育学科」を開設し現在に至

* 責任著者

宮内俊一 shun-miya.7.7@nayoro.ac.jp

る。名寄市立大学短期大学部児童学科となって募集停止翌年までの9年間で約450名の卒業生を輩出していることになる。

5. 結果

1) 「求人件数」

2013年度卒業生から2016年度卒業生に求人があった状況を提示する。(件数)

2014年度500件台であったが平均して毎年700件を超える求人がある。種別では、保育士が多く、続いて幼稚園教諭、認定こども園となっている。

道外からの求人では非正規の募集が2014年以降0～1件であるが、道内の求人では非正規の募集が2014年以降50～90件台と非正規の求人はある。

(表1) 求人件数

年度	総件数	保育士	幼稚園教諭	認定こども園	公務員	その他
2013年度	760	269	80	49	89	273
2014年度	549	310	95	33	68	43
2015年度	712	376	119	71	58	88
2016年度	753	281	106	69	46	251

(表2) 求人状況(正規・非正規別)

年度	保育士				幼稚園教諭				保育士・幼稚園教諭			
	道内		道外		道内		道外		道内		道外	
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
2013年度	86	84	97	2	70	3	7	0	7	0	21	21
2014年度	106	49	154	1	74	2	19	0	22	1	10	0
2015年度	129	36	211	0	99	0	20	0	53	8	10	0
2016年度	73	55	153	0	83	10	13	0	55	9	5	0

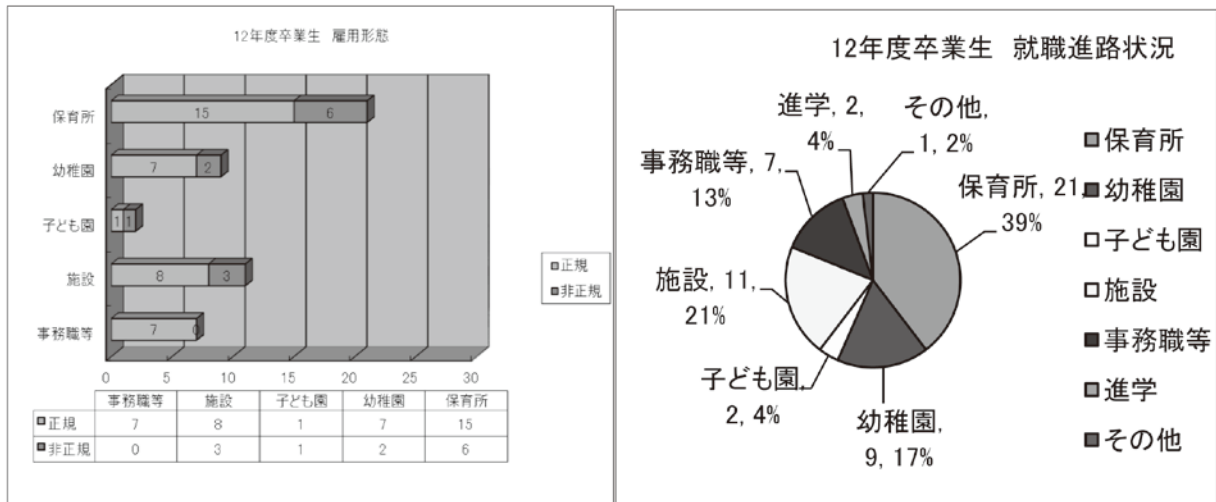
年度	公務員				その他				合計			
	道内		道外		道内		道外		道内		道外	
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
2013年度	66	23	0	0	273	0	0	0	502	110	125	23
2014年度	67	1	0	0	43	0	0	0	312	53	183	1
2015年度	49	9	0	0	73	4	11	0	403	57	252	0
2016年度	41	3	2	0	148	19	84	0	400	96	257	0

2) 「就職進路状況」

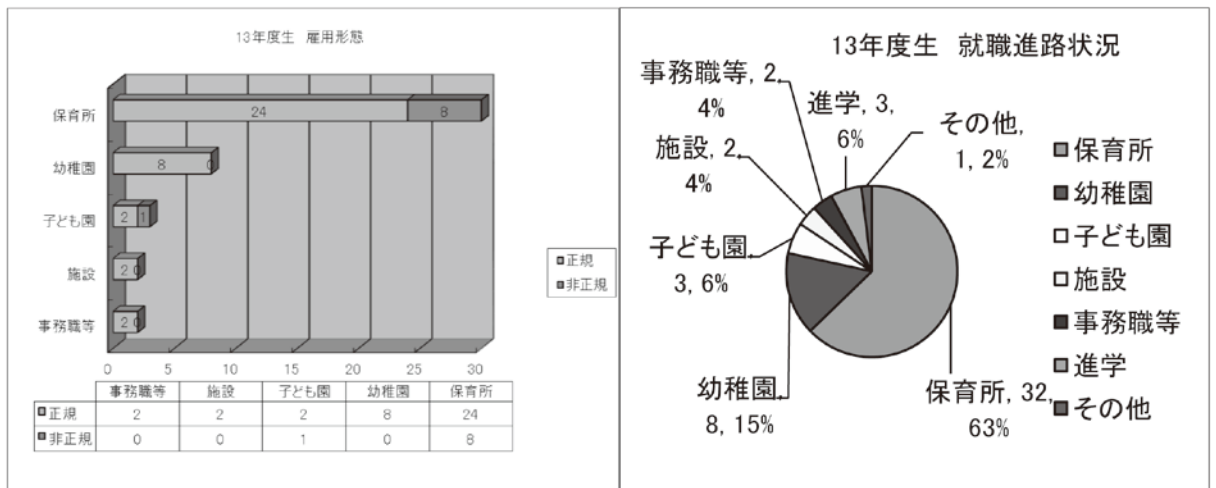
2012年度卒業生から2016年度卒業生の全体の状況を提示する。進学(4年制大学編入学)、その他を含めた集計である。(就職進路状況は人数と割合。図中の「子ども園」は「認定こども園」である。)(図1～5)

保育所は、2012年度卒業生は39%であったが、その後は55%以上を占めている。特に2013年度卒業生は63%であった。幼稚園は、17%から26%の割合で2番目に多い就職先となる。認定こども園は2%から4%の間で推移してきたが、2016年度卒業生の状況では17%であった。

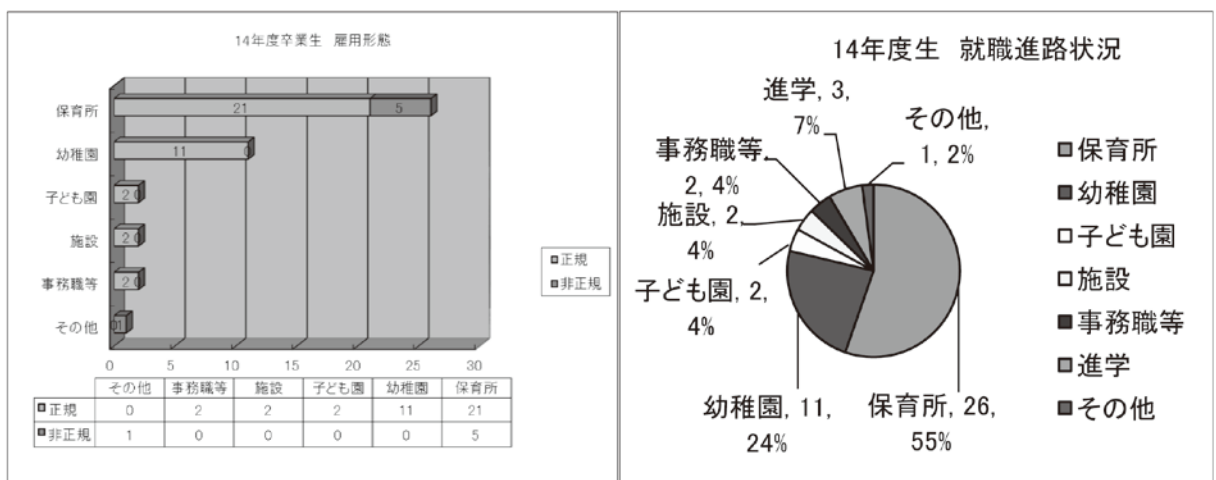
正規・非正規の雇用状態は、人数で示している。割合で比較することはできないが、保育所で見ると2015年度卒業生及び2016年度卒業生では確実に正規職員で就職している。幼稚園では2013年度卒業生以降は正規就職のみである。認定こども園と施設では各年で違う。



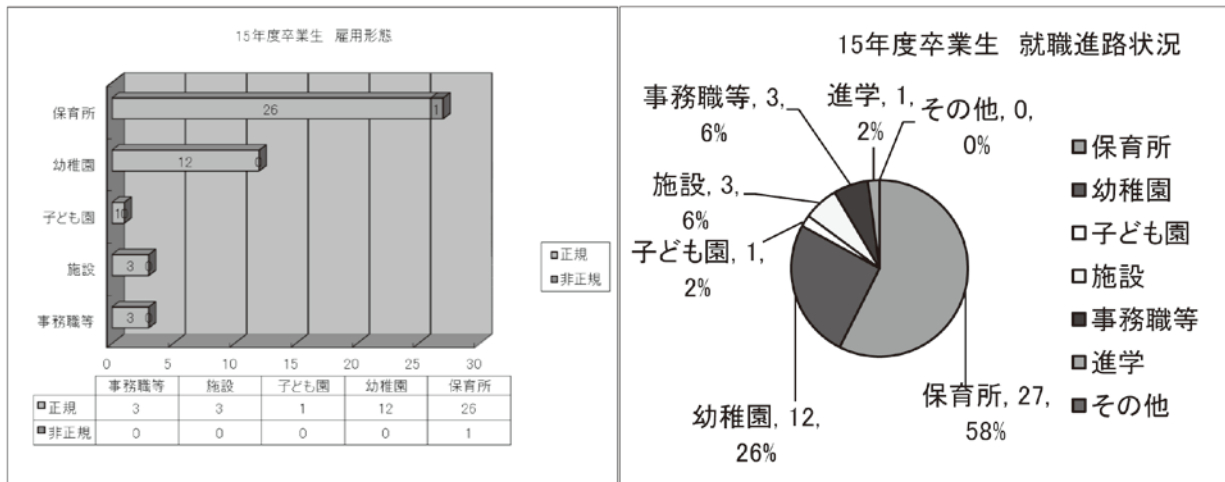
(図1) 2012年度卒業生



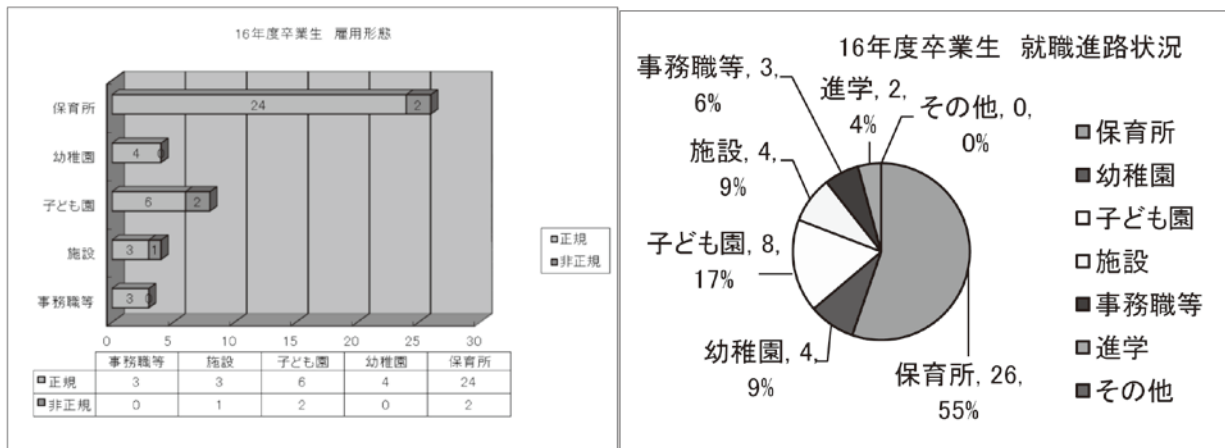
(図2) 2013年度卒業生



(図3) 2014年度卒業生



(図4) 2015年度卒業生



(図5) 2016年度卒業生

3) 「正規・非正規雇用」

2008年度卒業生から2016年度卒業生までの状況を提示する。(人数と割合)

正規雇用率は、2013年度以降80%を超えている。2015年度は97.8%であった。

公務員の就職は、2013年度において就職者数48人中、正規では23人、非正規では5人の合計28人であった。

(表3) 正規・非正規雇用

	就職者数(進学を除く)	正規雇用	正規雇用のうち公務員	非正規雇用	非正規雇用のうち公務員	正規雇用率(%)
2008年度	51	31	7	20	8	60.8
2009年度	50	30	11	20	6	60
2010年度	43	26	15	17	3	60.5
2011年度	53	33	15	20	5	62.3
2012年度	51	38	15	13	1	74.5
2013年度	48	39	23	9	5	81.3
2014年度	44	38	13	6	1	86.4
2015年度	46	45	20	1	1	97.8
2016年度	45	40	14	5	2	88.9

4) 「道内、道外別状況及び道北の状況」

2014年度卒業生から2016年度卒業生までを職種別で提示する。進学、その他を含めた集計である。(人数)

2014年度卒業生は、道内で就職進路を決めた人数が42人で、全体の87.5%である。その内、道北が17人であり、全体の35%である。道内における道北地域の割合は、40.5%である

2015年度卒業生は、道内で就職進路を決めた人数が42人で、全体の87.5%である。その内、道北が15人であり、全体の31%である。道内における道北地域の割合は、35.7%である。

2016年度卒業生は、道内で就職進路を決めた人数が49人で、全体の94.2%である。その内、道北が25人であり、全体の48%である。道内における道北地域の割合は、51%である。

(表4) 道内、道外別の状況 2015年3月31日現在

	道内	道外	合計
公立保育所	11	1	12
公立幼稚園	1	0	1
私立認定こども園	2	0	2
私立保育所	10	4	14
私立幼稚園	10	0	10
民間施設	2	0	2
公務員事務	1	0	1
一般事務	1	0	1
進学	2	1	3
その他(販売員)	1	0	1
就職希望なし	1	0	1
合計	42	6	48

(表5) 道北の状況

	道北
公立保育所	5
公立幼稚園	1
私立認定こども園	1
私立保育所	4
私立幼稚園	4
民間施設	1
公務員事務	0
一般事務	0
進学	1
その他	0
合計	17

(表6)道内、道外別の状況 2016年3月31日現在

	道内	道外	合計
公立保育所	18	1	19
公立幼稚園	0	0	0
私立認定こども園	1	0	1
私立保育所	4	4	8
私立幼稚園	11	1	12
民間施設	3	0	3
公務員事務	2	0	2
一般事務	1	0	1
進学	1	0	1
その他	0	0	0
就職希望なし	1	0	1
合計	42	6	48

(表7)道北の状況

	道北
公立保育所	6
公立幼稚園	0
私立認定こども園	1
私立保育所	1
私立幼稚園	6
民間施設	0
公務員事務	1
一般事務	0
進学	0
その他	0
合計	15

(表8)道内、道外別の状況 2017年3月31日現在

	道内	道外	合計
公立保育所	13	0	13
公立幼稚園	0	0	0
公立認定こども園	1	0	1
公立施設	1	0	1
私立認定こども園	7	0	7
私立保育所	11	2	13
私立幼稚園	4	0	4
民間施設	3	0	3
公務員事務他	0	0	0
一般事務他	3	0	3
進学	1	1	2
その他	0	0	0
就職希望なし	5	0	5
合計	49	3	52

(表9)道北の状況

	道北
公立保育所	7
公立幼稚園	0
公立認定こども園	0
公立施設	2
私立認定こども園	3
私立保育所	8
私立幼稚園	3
民間施設	0
公務員事務他	0
一般事務他	2
進学	0
その他	0
合計	25

5)「地元に戻って就職する人数と割合」

2012年度卒業生から2016年度卒業生までの状況を提示する。(人数と割合)

2013年度以降43%を超えている。2014年度は、47.8%である。

地元に戻って就職している卒業生が多い。

(表10) 地元に戻って就職する人数と割合

年度	道内（道北を除く）	道北（名寄市を除く）	名寄市	道外	合計	就職者数	割合%
2012	10	4	0	1	15	51	29.4
2013	12	6	2	1	21	48	43.8
2014	13	5	1	1	20	44	45.5
2015	9	7	2	4	22	46	47.8
2016	5	9	3	1	18	45	40

6) 「名寄市に関する就職状況」

2012年度卒業生から2016年度卒業生までの状況を提示する。(人数)

名寄市出身者は、名寄市内で就職するか、もしくは道内で就職している。名寄市出身者が道外へ就職した卒業生は、過去5年間いない。名寄市外の道内から来て、名寄市に就職した卒業生は数名いる。

(表11) 名寄市に関する就職状況

年度	名寄市出身	名寄市から名寄市	名寄市から名寄市外（道内）	名寄市から道外	名寄市外（道内）から名寄市
2012	3	0	3	0	1
2013	3	2	1	0	1
2014	4	1	3	0	2
2015	4	2	2	0	2
2016	4	3	1	0	1

7) 「主な道内就職地域」

2012年度から2016年度で、就職人数が多い順に掲示する。(括弧は就職人数。1位から3位までの提示)主に札幌市、旭川市、北見市に多く就職している。名寄市も上位の年度が多い。

(表12) 主な道内就職地域

年度	1	2	3
2012	旭川市(6)	北見市(4)	帯広市(4)
2013	北見市(5)	旭川市(4)	名寄市(4)
2014	旭川市(6)	札幌市(4)	北見市(4)
2015	札幌市(8)	名寄市(5)	旭川市(4)
2016	旭川市(13)	札幌市(9)	名寄市(3)

6. まとめと考察

「求人件数」、「就職進路状況」、「道内、道外別状況及び道北の状況」、「正規・非正規雇用」、「地元に戻って就職する人数と割合」、「道外への就職状況」、「名寄市に関する就職状況」、「主な道内就職地域」として短期大学部児童学科2016年度卒業生から数年間を遡って提示した。保育園、幼稚園、認定こども園及び施設を中心に傾向や特徴をまとめ、考察を試みる。

求人は、相対的に700件台と安定している。道内の正規・非正規では、保育士の正規募集が約50%~70%である。幼稚園教諭と認定こども園は、約80%~100%である。道外は正規募集がほとんどであり道内の募集では依然として非正規募集が続いている現状である。道内の募集側の状況は図れないが不安定さがある募集であると言える。

就職進路状況では、保育所が約40～60%を占める。保育園への就職が、各年一番多く割合を占めているのが特徴である。保育士を希望する学生が多いということになる。待機児童問題があり、保育士不足と相俟って需要は大きい。幼稚園は、2番目に多い就職先である。認定こども園は10%以下で推移してきたが、2016年度卒業生の状況では17%と大きく伸びているのが特徴である。幼保連携型の認定こども園が設立され今後も増えていく中で就職先として大いに期待される場所である。社会保育学科としては、保育士免許と幼稚園教諭一種の両方の資格を取得して「保育教諭」を育てていくことが使命となる。施設保育士は2012年度卒業生21%と高水準であったが、その後4%～9%の推移である。24時間子どもたちと向き合い生活していく施設保育士は親との関わり等も含めると幅広い質の高い支援が望まれる。社会保育学科は、本学の特徴でもある看護・栄養・社会福祉各学科との連携教育等を通して、様々な専門分野を学び視野を広げ、人間性を高める保育士養成をしている。

雇用形態における正規・非正規雇用は、どの職種も一部を除いて年々正規職員で就職している学生が多いことがわかる。正規雇用率は、2013年度以降80%を超えている。2015年度は97.8%であった。生活の安定を求める傾向が窺える。非正規雇用では、数字で提示できないが、進路指導で学生が正規・非正規で選択するのではなく、希望する就職先が非正規の募集しかなく就職している実態がある。公務員（正規・非正規）への就職は、2008年以降平均で約38%である。特徴的年度としては、2013年度が就職者数の58%を占めた。公務員非正規保育士は、自治体によっても対応が異なり、同じ保育士が、ある自治体では特別職、別の自治体では臨時職ということが珍しくない。こういう状態を整理し「会計年度任用職員」に移し変え、改正地方公務員法（第22条第2項）（2017年5月成立）に明記した。

道内、道外及び道北の状況は、道内における就職が多い。札幌市内の就職は人気があるが、道北地域での就職割合もかなり高い。2016年度の卒業生においては、道内就職進路等割合は卒業生全体の94.2%、その内、道内就職進路等における道北地域就職進路等割合は51%である。道外を含めた全体での割合でも48%と高い水準である。児童学科の卒業生は、道外への就職進路等よりも道内で就職進路等を決めていく傾向が強い。大きな特徴としては、地元に戻っての就職割合が、かなり高い。2015年度卒業生での就職は、47.8%と半数近くは地元に戻っている状況である。主な要因としては、生まれ育った地域の安心感と地域創生の推進が考えられる。特に地域創生の一環として、道内の市町村が独自に、地元で就労等した場合の返還補助や免除規定がある奨学金の貸与を行ったりしている。名寄市でも、2016年度卒業生から始まった地元定着化推進事業（地元就業支度金助成事業10万円、奨学金変換支援事業最大72万円の補助）等がある。今後、保育士宿舍借り上げ支援等が実施され定着していけば、地元で就職する可能性がより高まると考えられる。財政の課題等の問題があるが、人口減少に直面する地方圏において就職する学生の定住は、重要な政策課題であることは間違いない。しかし、賃金および処遇改善手当の改善やワークライフバランス視点からはどうであろうか。道内での就職、特に地元での就職は、望ましいものなのか等の検討が必要と思われる。国、都道府県および市町村の動向の中で、社会保育学科の学生はどのように就職選択するのか注目したい。また、厚生労働省、文部科学省の国家公務員、地方公務員として保育や幼稚園の行政での仕事、大学院での研究を深めるなど活躍の場が広がることが期待される。

課題としては、今回、統計資料の関係で項目によって年度が統一できなかった。北海道保育士実態調査について（2016）、道北地域の保育者の就業実態と就業意識に関するアンケート調査（2017）、東京都保育士実態調査報告書（2014）等の比較研究、地元志向の意識調査等が課題であり、他日を期したい。

参考文献

厚生労働省（2017）『保育士確保集中取り組みキャンペーン』。

北海道保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課（2016）『北海道保育士実態調査【調査結果報告書】』。

名寄市・名寄市立大学（2017）『道北地域の保育者の就業実態と就業意識に関するアンケート調査』.

前田正子（2017）「保育園問題」中央新書.

小寺俊博（2017）『「保育人材」に関するアンケート調査の結果』独立行政法人福祉医療機構経営サポートセンターリサーチグループ.

東京都福祉保健局（2014）『東京都保育士十戒調査報告書』.